

大雨被害後における対応について①

～トマト・ミニトマト・イチゴ～

【定植苗の確認】

（育苗ハウス）

- ・被覆物（防虫ネット、サイドビニル、天井ビニル）が破損している場合は、補修等を実施。
- ・冠水したハウスにおいては、排水を速やかに実施し、乾燥させる。
⇒苗の管理ができる状態に戻す。

（苗管理）

- ・浸水した苗は、まずは泥等の汚れをしっかりと洗い流し、乾燥する。
⇒洗浄時には、きれいな水で実施し、鉢間隔を広げて通風を良くする。
- ・苗が弱っていることも考えられるため、高温・強日射時には遮光資材の活用を検討する。
- ・病害予防のため、薬剤防除を実施する。
⇒苗が弱っている場合は薬害が懸念されるため、高濃度（晴天・高温時）での散布は控える。
- ・浸水により、根傷みが懸念されるため、灌水管理の過剰な乾湿に注意する。
⇒発根促進剤や葉面散布も検討し、草勢の回復を図る。
- ・不良苗を除去し、苗の本数を確認する。
⇒数日経過しても、萎れが回復しないもの、枯れているものは除去する
（放置は、病害リスクが増加。特にイチゴは炭疽病・萎黄病が懸念される苗は早期に除去）

★苗の状態確認方法：朝・夕に、葉の展開が見られているか、萎れが回復しているか等を観察。

（農薬例）晴天・高温時の薬害に注意し、登録内容を必ず確認して、使用者責任のもと適正に使用して下さい

●トマト・ミニトマト（苗の回復状態を確認しながら、コナジラミ等の防除も実施する）

病害名	農薬名	希釈倍率	使用回数	備考
疫病	ダコニール 1000	1,000 倍	4 回	ミニ 2 回
疫病	ランマンフロアブル	2,000 倍	4 回	
疫病 軟腐病	カスミンボルドー	1,000 倍	5 回	
疫病	Z ボルドー	600 倍	—	
疫病	クプロシールド	1,000 倍	—	

●イチゴ

病害名	農薬名	希釈倍率	使用回数	備考
炭疽病	ジマンダイセン水和剤	600 倍	6 回	収穫 76 日前まで
疫病	レーバスフロアブル	2,000 倍	4 回	育苗時 2 回

【栽培圃場の確認】

（ハウス）

- ・被覆物（防虫ネット、サイドビニル、天井ビニル）が破損している場合は、補修等を実施。
- ・冠水したハウスにおいては、排水を速やかに実施し、過湿にならないよう注意する。
- ・畝は、乾き具合を確認し、マルチ等の原状復旧を図る。

（付帯設備）

- ・暖房機や炭酸ガス発生装置へ浸水入した場合、十分乾燥させたのち、必ず点検を実施する。
- ・重油タンクへの雨水浸入等が生じていないか確認する。

大雨被害後における対応について②

～アスパラガス～

【栽培圃場の確認】

- 圃場内に停滞する水はポンプアップ等で速やかにハウス外へ排水する。
⇒停滞が続くと根傷みが懸念される。
- 茎葉に付着した泥等の汚れをしっかりと洗い流し、乾燥させる。
⇒泥等の汚れが長期間付着していると、光合成低下につながる。
- 病害予防のため、薬剤防除を実施する。
⇒圃場内への浸水後は湿度が高く、病害が発生しやすいため、殺菌剤の散布などを実施する。
※妻面やハウス肩口を開口し、換気を促して湿度を下げる
- 浅耕や中耕により土壌の通気性を確保する（マルチをめくり土壌表面の乾燥を促進する）。
⇒根の呼吸確保（発根促進剤や酸素供給剤も検討する）。
- 窒素流亡が考えられるため速効性肥料等で樹勢回復を図る。
⇒過剰施肥には注意する。
- 圃場内の土壌を乾燥させる場合、高温で乾かすと湿熱で根痛みが発生するおそれがあるため遮光資材の活用を検討する。

（農薬例）

※晴天・高温時の薬害に注意し、登録内容を必ず確認して、使用者の責任のもと適正に使用して下さい

病害名	農薬名	散布方法	希釈倍率	使用可能日数	使用回数
茎枯病	シグナムGW	散布	1,500倍	収穫前日まで	2回以内
茎枯病	アミスター20フロアブル	散布	2,000倍	収穫前日まで	4回以内
斑点病	スコア顆粒水和剤	散布	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
斑点病	コサイド3000	散布	2,000倍	-	-
褐斑病 褐斑病	ダコニール1000	散布	1,000倍	収穫前日まで	4回以内